

北海道 釧路西部圏域 総合水産基盤整備事業計画 (R4~R8)

1 圏域の概要

(1) 水産業の概要

①圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

当圏域は、北海道太平洋東部海域に位置し、白糠町及び釧路市を範囲としている。

圏域中央には物流の拠点となる重要港湾で、国際バルク戦略港湾にも選定されている釧路港を配し、これを挟むように漁港が位置し、コンブなどの採藻漁業やサケ定置網漁業、カレイやタコなどの沿岸漁業の生産拠点となっている。

漁業活動の中心的役割を担っている漁業協同組合は、白糠漁港に所在する「白糠漁業協同組合」釧路港に所在する「釧路市漁業協同組合」及び「釧路機船漁業協同組合」、釧路市内に所在する「釧路市東部漁業協同組合」である。

②主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況

当圏域における令和元年度の漁業生産は、3,704トン（ほか、釧路港では沖合底びき網漁業を中心に172,849トン）となっており、主要漁業種類はサケ漁業とコンブ漁業で、両魚種で圏域内の約50%にあたる1,838tの水揚げとなっている。

それ以外にも、北海道の代名詞的な魚種の一つであるケガニや道内でも道東の一部でのみ漁獲されるシシャモやヤナギダコなども漁獲されている。

サケ・コンブとも近年、漁獲が減少傾向であるが、種苗の放流方法の工夫や雑海藻駆除を行うなど資源の回復を図っている。

③水産物の流通・加工の状況

白糠漁港においては、漁港内に産地市場を有し、白糠漁港に水揚げされる漁獲物の集積・出荷の拠点となっている。主な出荷先は、白糠町内や釧路市、札幌方面などである。

釧路市内の2漁港は、大部分が釧路港内の産地市場に運ばれ、そこから市内や札幌方面などに出荷されている。

白糠町内及び釧路市内に出荷された水産物は生鮮として小売りされる他、町内・市内の加工場において一次加工及び高次加工されている。

④養殖業の状況

当圏域内において養殖業は行われていないが、資源管理やつくり育てる漁業の取り組みとしてマツカワの種苗放流やウニの種苗放流が行われており、資源増大に取り組んでいる。

⑤漁業経営体、漁業就業者（組合員等）の状況

圏域内での組合員数は、世代交代も重なりこの5カ年間で10%程度の減で推移しており、減少傾向が見られるものの、急激な変動には至っていない。

⑥水産業の発展のための取り組み

水産資源の増大と継続的な利用を図るため、種苗放流（サケ）や中間育成（サケ）、底質改善（コンブ）などの取り組みを実施している。

⑦水産基盤整備に関する課題

産地市場を有する白糠漁港であるが、屋根付き岸壁が整備されていないなど衛生管理が十分でない状況である。加えて、耐震機能診断が未実施であり地震災害発生時の施設への影響に不安があることや耐震施設が整備されておらず、震災発生後の速やかな漁業活動の再開ができない可能性がある。

また、釧路市内の2漁港については、施設の老朽化が進んでおり、また近年の荒天時における潮位の上昇により越波・越流がみられるなど漁港機能に支障が出ている。

⑧将来的な漁港機能の集約化

現状、圏域内の漁港施設に関しては統合、廃止、集約化等、機能再編に係る計画は予定されていないが、釧路港において衛生管理型産地市場の整備が予定されており、荷さばき機能の集約・出荷機能の再編が行われる見込み。

今後、漁業情勢を取り巻く環境の変化により対応が必要となった場合は、随時検討していく。

。

(2) 圏域設定の考え方

①圏域タイプ	流通拠点型	設定理由：産地市場を有する流通拠点漁港である白糠漁港や釧路港（港湾）に水産物が集約され、消費地（釧路市内や札幌市など）に出荷
②圏域範囲	白糠町 釧路市	設定理由：流通拠点である白糠漁港及び釧路港に白糠町及び釧路市の水産物が集約されている ・白糠漁港：白糠町沿岸で漁獲された水産物が集約される。 白糠漁業協同組合が所在する。 ・釧路港：釧路市沿岸のみならず、沖合底びき網漁業やいか釣り漁業など沖合漁業の漁獲物も集積される。
③流通拠点漁港	第2種 白糠漁港	設定理由：産地市場を有し、年間10億円以上の属地陸揚量がある。また、天蓋施設整備による衛生管理や耐震整備による災害時の早期機能回復が予定されている。 ・利用漁船：89隻 (R1) ・属地陸揚量：2,054.3トン ・属地陸揚金額：13.20億円 ・衛生管理計画を策定し、水産生産基盤整備事業により衛生管理対策として天蓋施設整備や防災減災の観点から岸壁の耐震化等を実施する。 ・BCP策定済 ・ICTは導入していないが、環境対策として使用電力の一部を太陽光発電で賅っている。
④生産拠点漁港	第1種 千代ノ浦漁港 桂恋漁港	設定理由：コンブ等の生産基地として中核的な役割を担っており、登録漁船数が50隻以上ある

		<p>■千代ノ浦漁港</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用（登録）漁船： 28（72）隻（R1） ・属地陸揚量： 611 トン ・属地陸揚金額： 2.05 億円 ・コンブ漁業、サケ定置漁業を主体とする。 ・荒天時、漁船避難場所となっている。 <p>■桂恋漁港</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用（登録）漁船： 53（102）隻（R1） ・属地陸揚量： 1,038 トン ・属地陸揚金額： 3.49 億円 ・コンブ漁業、サケ定置網漁業、タコ漁業を主体とする。 ・荒天時、漁船避難場所となっている。
⑤輸出拠点漁港	第3種 白糠漁港	<p>設定理由：サケについて以下の要件に合致するため。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流通拠点漁港に属する ・北海道漁連等関係機関と連携し、中国に輸出 ・栽培養殖魚種であるサケの陸揚量1,000 t 以上 <p>※ 近年、不漁により陸揚量減の年もあり</p>

(令和元年)

圏域の属地陸揚量	176,553トン うち釧路港172,849トン	圏域の登録漁船隻数	333隻 うち釧路港 57隻
圏域の総漁港数	3 漁港	圏域内での輸出取扱量	1,227トン うち釧路港 1,193トン
圏域で水産物の水揚実績がある港湾数	1 港湾		

- ⑥「養殖生産拠点地域」について
該当なし

<p>2. 圏域における水産基盤整備の基本方針</p> <p>(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化</p> <p>①拠点漁港等の生産・流通機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産・流通機能の強化 <p>白糠漁港（流通拠点漁港）では、危害要因を排除し、衛生管理体制を向上させるために天蓋施設の整備を進めている。</p> <p>また、総合的管理体制の確立については、関係者の衛生管理意識の向上や施設の効果的運用を図るためにソフト施策を講じていく必要があることから、地元のニーズや水産業を取り巻く当圏域の情勢を勘案しながら検討を進める。</p> <p>港湾においても、衛生管理型産地市場の整備が予定されており、圏域一体として水産物の価格形成力向上や流通拠点機能の強化を図る。</p>

・輸出促進への対応

圏域内の漁港施設等について、衛生基準等に対応し輸出を促進するため、衛生管理された高品質な水産物の流通増大及び鮮度保持対策を進める必要がある。

②養殖生産拠点の形成

圏域内において養殖業が行われている実態はないが、今後の漁場環境の変化等を踏まえ養殖業への転換も視野に入れながら検討を進める。

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

当圏域の主要魚種である回遊性魚種のスケ、マス、サンマ等は、海洋環境の変化等により近年記録的不漁が続いている状況にあり、地域経済に与える影響が大きく、地域水産業不安定化の一因となっている。

一方、資源管理や種苗放流、漁場の整備等により地区の主要な地先資源であるカレイ類やタコ類の漁獲量は増加傾向にあるほか、コンブ漁場でもある藻場を多く有している。

このため、一部減少が見られる藻場の造成を行いコンブ漁場となる環境を整備し、海洋環境の変化等による影響を踏まえて沖合にはヤナギダコの産卵環境のほか、魚礁の造成により資源管理等の取組が行われているカレイ類等の育成・生息環境づくりを行い、水産物の生活史に配慮し環境変化に対応した漁業生産力の強化を図る。

②災害リスクへの対応力強化

日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震など大規模地震・津波の発生が切迫し、また台風・低気圧災害の頻発化・激甚化による漁港関係施設の被害が増大傾向となる中で、陸揚げから流通に至る地域水産業の安全安心の確保と、被災後の早期再開を可能とする対策を講じる。

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

①「海業」による漁村の活性化

既存施設や取り組みを継続・発展させることで交流人口の増や水産物の付加価値化による所得向上を目指す。

②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

水産業に従事する多様な担い手による様々な活動が支障なく継続できるよう適宜対策の検討を進めていく。

3. 目標達成のための具体的な施策

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

①拠点漁港等の生産・流通機能の強化

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
白糠	流通機能強化	水産生産基盤整備事業	白糠漁港	第2種	○
釧路港	流通機能強化	水産流通基盤整備事業	釧路港	港湾	

流通拠点となっている白糠漁港において高度衛生管理を実施するため天蓋施設を整備し、既存の衛生管理型産地市場（荷捌所）と一体で衛生管理体制の構築を図る。

釧路港においても水産流通基盤整備事業を活用し、衛生管理型産地市場（第8魚揚場）を整備し水産物流通体制の強化を図る。

これらの整備を通じて、衛生管理体制を確立し、鮮度保持された品質の高い水産物を安定供給することにより生産・流通機能の強化と輸出の促進を図る。

②養殖生産拠点の形成

圏域内において、地域水産業を取り巻く情勢の変化に応じながら、養殖可能な魚種の選定や養殖試験の実施により検討を進める

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

地区名	主要対策	事業名
北海道太平洋中部	環境変化、資源管理	水産環境整備事業
釧路市地先	藻場・干潟	水産環境整備事業

小型海藻類等の占拠により荒廃したコンブ藻場の回復のため、底質改善を実施する。

また、沖合には地区の主要な水産物の一つであるタコ類の産卵基質を造成するほか、成長段階に応じ深淺移動するソウハチ産卵親魚の良好な生育環境を創出する魚礁を設置する。また、魚礁の設置によりソウハチやクロガシラガレイ、種苗放流を行っているマツカワを含むカレイ類やタコ類、ホッケ、タラ、スケトウダラの生息の場づくりを行い、これら魚類の生活史を考慮した沿岸から沖合までの一体的な整備により、水産資源の回復・増大を図り、地域の漁業生産力を強化する。

②災害リスクへの対応力強化

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
白糠	早期再開	水産生産基盤整備事業	白糠漁港	第2種	○
千代ノ浦	安全・安心	農山漁村地域整備交付金	千代ノ浦漁港	第1種	
桂恋	安全・安心	水産生産基盤整備事業	桂恋漁港	第1種	

地震や津波などの被災後も速やかに水産業の再開が可能となるよう係留施設の耐震化など防災対策を講じる。

また、台風・低気圧災害の頻発化・激甚化による被害防止のため、外郭施設の改良整備を実施し、漁港施設の保護と利用者の安全確保・安心利用を図る。

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

①「海業」による漁村の活性化

道の駅しらぬか恋問館に白糠漁業協同組合の直売所が併設されており観光客等への鮮魚や水産加工品の提供・情報発信を行っている。また、ふるさと納税の返納品として地域水産物が非常に好評を博しており、地域の魅力発信に寄与していることから、これらの取り組みを継続し交流人口の増や水産物の付加価値化による所得向上を目指す。

現在、具体的な施策は計画されていないが、漁港機能の集約・分担の可能性の模索や漁港の「海

業」への活用等、既存ストックの有効活用について関係者と検討する。

②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

当圏域では、シシャモ陸揚時に選別作業を要する、コンブを干すために家族総出で作業に当たるなど、女性や高齢者、若年層の従事者も多い。また漁業協同組合の女性部や青年部では漁港清掃などの地域活動も盛んに行われている。

今後、高齢化など年齢階層の変遷が迫る中で、これらの活動に支障が生じる懸念もあることから状況に応じた対策の検討が必要となる。

4. 環境への配慮事項

- ・白糠漁港の産地市場では、屋根に太陽光パネルを設置しており、使用電力を太陽光発電で賄うなど自然エネルギーの有効活用の取り組みに努めている。
- ・漁港内の航行に必須である標識灯について、小型太陽光パネルで電力供給できる仕様に順次更新している。

5. 水産物流通圏域図

別添のとおり

北海道釧路総合振興局水産物流通圏域図

釧路西部圏域 流通拠点（一般）型

流通拠点：白糠漁港（第2種）
 圏域総陸揚量：3,704.0 t
 圏域総陸揚金額：18.7億円
 漁港3港、港湾1港

釧路中部圏域 流通拠点（養殖・採貝業）型

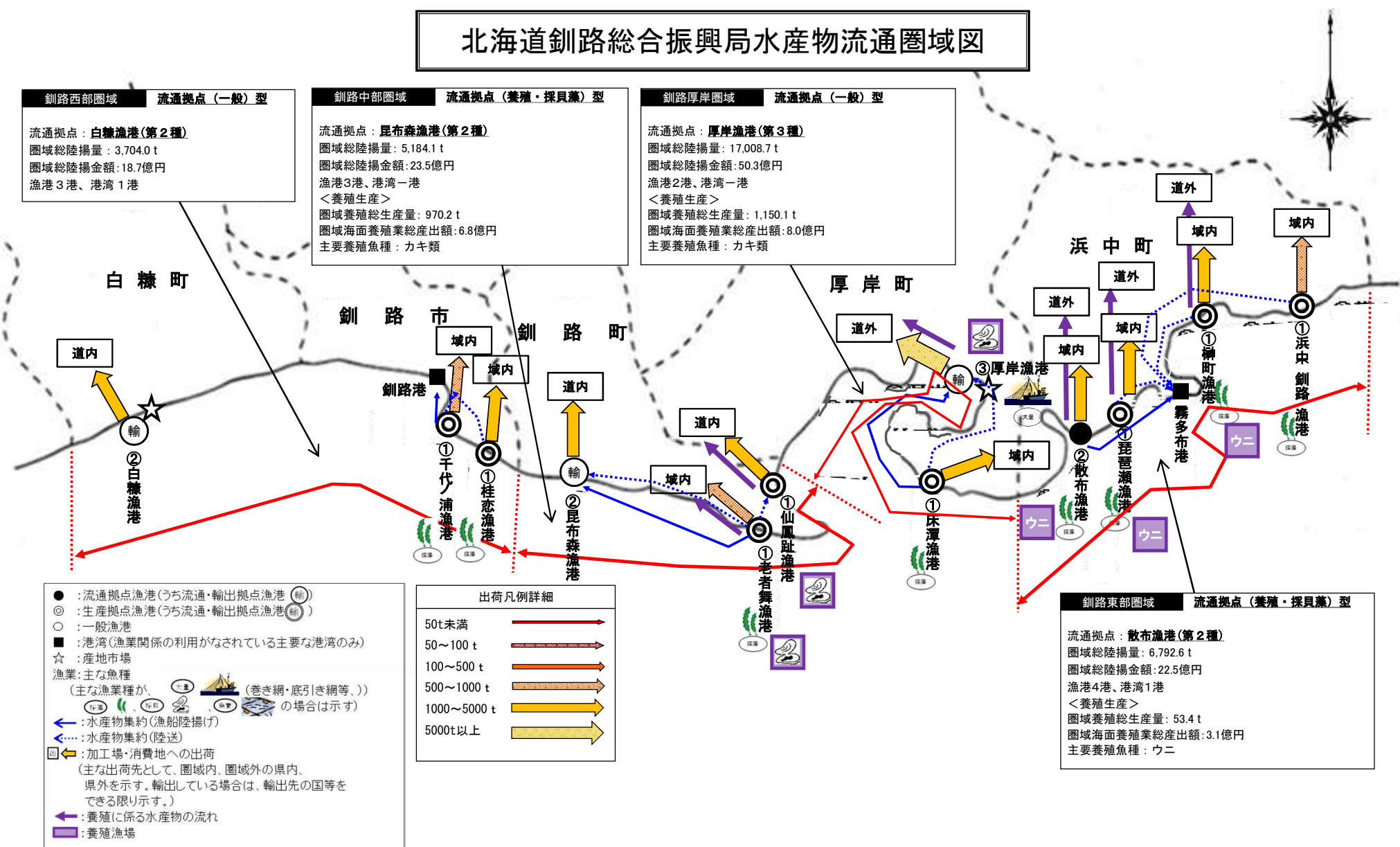
流通拠点：昆布森漁港（第2種）
 圏域総陸揚量：5,184.1 t
 圏域総陸揚金額：23.5億円
 漁港3港、港湾1港
 <養殖生産>
 圏域養殖総生産量：970.2 t
 圏域海面養殖業総産出額：6.8億円
 主要養殖魚種：力キ類

釧路厚岸圏域 流通拠点（一般）型

流通拠点：厚岸漁港（第3種）
 圏域総陸揚量：17,008.7 t
 圏域総陸揚金額：50.3億円
 漁港2港、港湾1港
 <養殖生産>
 圏域養殖総生産量：1,150.1 t
 圏域海面養殖業総産出額：8.0億円
 主要養殖魚種：力キ類

釧路東部圏域 流通拠点（養殖・採貝業）型

流通拠点：散布漁港（第2種）
 圏域総陸揚量：6,792.6 t
 圏域総陸揚金額：22.5億円
 漁港4港、港湾1港
 <養殖生産>
 圏域養殖総生産量：53.4 t
 圏域海面養殖業総産出額：3.1億円
 主要養殖魚種：ウニ



- ：流通拠点漁港（うち流通・輸出拠点漁港（輸））
- ◎：生産拠点漁港（うち流通・輸出拠点漁港（輸））
- ：一般漁港
- ：港湾（漁業関係の利用がなされている主要な港湾のみ）
- ☆：産地市場
- 漁業：主な魚種
 （主な漁業種が、（巻き網・底引き網等、）
 の場合は示す）
- ←：水産物集約（漁船陸揚げ）
- ⋯：水産物集約（陸送）
- ⇄：加工場・消費地への出荷
 （主な出荷先として、圏域内、圏域外の県内、
 県外を示す。輸出している場合は、輸出先の国等を
 できる限り示す。）
- ←：養殖に係る水産物の流れ
- ：養殖漁場

出荷凡例詳細

50t未満	
50～100 t	
100～500 t	
500～1000 t	
1000～5000 t	
5000t以上	